



# 日本農業新聞

## 奮闘

ギをJA産直市「となりの農家」や道の駅に出荷している他、同町特産のエゴマも栽培。今年は新たにピーマンにも挑戦す

る。部会の研修会や視察に積極的に参加して、先輩農家と交流をしながら技術の向上に努める。部会で導入が進んでいる「日射抑制型拍動かん水システム」も栽培1年目から取り入れた。省力化や労力を軽減するとともに、

適時・適量のかん水と施肥で収量が増えたという。仲田さんは「苦労もあるが、やりがいを感じている。今は両親に手伝ってもらっているが、一人でできるような体制を整えていきたい」と将来を見据える。

JA岡山県女性協  
伊原木知事を訪問

## フードバンク協力要請

【岡山】JA岡山県女性組織協議会は7日、岡山市の県庁へ伊原木隆太知事を表敬訪問し、意見交換をした。食と農を通じた地域の活性化・環境の保全活動で「岡山県に住んでよかった」と思ってもらえる取り組みをPRした。

い。ネットワークを作っていたら、困っている家庭を支援したい」と述べた。伊原木知事は「国

## 一致団結し 地域活性化

広島・JA安芸  
職員OB会総会

【広島・安芸】JA安芸はこのほど、海田町の本店で職員OB会・農林

可決した。同会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、生活向上のための改善推進、同JAの発展に寄与することを目的に活動している。

簡塩清美会長をはじめ、女性部代表8人とJA岡山中央会の安田和弘専務ら13人が訪問。簡塩会長からは「フードバンク(食品の規格外品などを引き取り福祉施設などへ無料で提供する活動)に農業者として関わら

漁業退職者連盟安芸支部合同総会を開いた。会員ら約50人が出席。2017年度行事報告や収支決算報告、18年度行事予定などを審議し満場一致で

職員OB会の空田忠会長は「会員が一致団結してアクティブメンバーシ

組み、組合員や本会、地域の活性化につなげていきたい」と話した。